

第74回東伏見スポーツサイエンス研究会

日時 2022年10月7日(金) **18:10~19:40**

場所 早稲田大学79号館(STEP22)205教室・オンライン同時開催

(Zoom、詳細は案内メールに記載)

演題

「サンテル事件」を問い直す

藪 耕太郎(仙台大学)

■1921(大正10)年3月5日・6日、靖国神社境内に設置された特設リングにて、雑誌『**武俠世界**』を手掛ける**武俠世界社**の主催のもと、**アメリカ人レスラー**と**日本人柔道家**との試合が開催された。新聞社各社による盛んな報道も手伝って、当日集った観客は数千人に上り、その中には**太刀山**や**渋沢栄一**ら著名人の姿もあった。これほど衆目を集めたこの一戦だが、柔道勢の試合への参加を巡っては、**嘉納治五郎**と**岡部平太**の柔道観を巡る確執が表面化し、**岡部**は講道館を退門する一方で、**嘉納**は一旦参加を容認した後にそれを撤回し、さらに参加者を処罰する、という悶着も生じていた。

レスラーの**アド・サンテル**の名を冠して、通称「**サンテル事件**」と呼称されるこの出来事については、**スポーツ／武道**、**競技／武術**、**アマチュア／プロ**など、大正期の柔道が抱えていた諸問題を可視化する格好の研究対象として、柔道史の分野で近年盛んに考察されている。しかし、未だ**サンテル事件**の全容が解明されたわけではない。

そこで本講演では、①**サンテル**の来日を手引きしたのは誰か？②なぜ講道館本部ではなく町道場の柔道家が試合に応じたのか？③**武俠世界社**はどうして試合に関わったのか？という3つの視点からこの出来事を問い直す。そこでは、①**興行**としての**サンテル事件**、②**講道館**と**町道場**との**アンビバレンス**、③**アマチュアスポーツ**に対置される**バンカラスポーツ**、の所在と意味が炙り出されるだろう。

■プロフィール:2010年3月に立命館大学大学院社会学研究科博士課程修了(博士:社会学、立命館大学)。2012年4月より仙台大学体育学部に着任(現:准教授)。武道の国内外への伝播の歴史について広義の身体運動文化との連関から問うことを専門とする。近著に、**Challenging Olympic Narratives: Japan, the Olympic Games and Tokyo 2020/21**(Andreas Niehausとの共編著, Ergon Verlag, 2021)、『**柔術狂時代—20世紀初頭アメリカにおける柔術ブームとその周辺—**』(単著, 朝日新聞出版, 2021)。

